

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 花	評価実施年月日	平成20年10月 1日
評価実施構成員氏名	Aユニット ST ・ TT ・ IY ・ KM ・ SM ・ YT ・ KY ・ NM		
記録者氏名	TT	記録年月日	平成20年10月 1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>・年一回理念についての勉強会を開き、指針の明確化、理念を基にした各自の取り組みを明確にしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>・朝夕の申し送りで理念を読み上げ全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の開催、家族会の開催、町内会の参加、地域ボランティアへの参加により、施設、家族、地域の方々との交流を通じ、互いの想い、考えを理解する機会を作り、理念の浸透に努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>・定期的な町内会の回覧板を、入居者と共に届けたり、散歩の際に会う方々に挨拶を行っている。また行事への招待も取り組んでいる。</p> <p>・地域の高齢者との「お茶会」を企画して、実施してみた。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>・町内会の新年会、花見、総会など地域の行事に参加している。</p> <p>・入居者の方々は地域貢献ボランティアに参加したり、近所のお店を利用し買い物や美容室などを楽しんでいる</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の開催、地域ボランティア、地域行事への参加により、地域の方々と交流をすすめる、互いの想い、考えを理解する機会を作るように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し取り組んでいる		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、行事についての説明や、日ごろの入居者様の現状や取り組みを説明するとともに、委員の方の意向により開催日を行事開催日に行い、会議に参加していただく入居者様だけではなく、入居者様全員の姿を見ていただくようにしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	旭川市に対して、分からない点、疑問点を放置せず確認するよう心掛け、報告事項も正規に行なっている		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律家への相談や研修への参加により学ぶ機会をもち、勉強会も開催している。 ・必要性がある入居者様について、施設長を中心に各ユニット役席が話し合うことにしている。 ・必要性があればご家族様と話し合うことにしている。 		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加や勉強会を行っている。 ・スタッフと入居者様の信頼関係、言葉のやり取り、特に朝の入居者様の精神状態を観察し把握する様努力している。 ・身体部のアザ、傷などの異変出現の際には、その原因について検討するとともに、スタッフ全員が完治までの状況把握を徹底することにより、スタッフ間の牽制を図っている。 		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分な説明を行い理解・納得を図るとともに、その後についても話しやすい環境提供に努めている。		

Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・定期的に行なわれている運営推進会議に入居者様にも参加して頂き、意見をいただいたり、行事等に外部の方の参加を呼び掛け外部の方に意見を頂いている。また日常生活でも、不満苦情を言える環境に気を配っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	・ご家族様に、担当介護員からの生活状況や心身の状態を伝える便りを毎月出している。また金銭出納帳の写しと領収書も併せて送付している。 ・急な心身の異常などは、必要に応じ電話で都度伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様と施設とのより良い関係を築くため、家族会の開催や来訪時の話し込み等を行い、改善点は都度職員で話し合い改善している。また良い点についても職員に伝え意識の向上に努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・勤務についても状況に応じ柔軟な対応をしている。 ・状況に応じそれぞれのユニットが協力し合っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の介護員の移動は極力少なくしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中などリフレッシュできる環境で過ごしている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居される前にご家族様からの詳しいお話を聞いたり、現在利用しているケアマネジャーや医療機関からの情報提供をいただくとともに、家庭訪問等を必要回数行い、ご本人様との面談により必要な情報を得ながら信頼関係の基礎を築いている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族様には、見学、電話、家庭訪問、契約、その他面談時等によくお話を聞き、ご家族様の要望や施設の理念をお話しして、理解と不安の解消に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要としている支援を可能な限り理解検討し、その中で自分達で出来る事と出来ない事を見極め、他のサービス利用も含めた対応も検討するようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・ご本人が安心出来る様に、気持ちを理解するように努め、周囲の人やその場に馴染むまでは、細かく様子を観察し、特に入居される前の家庭訪問等でコミュニケーションを持つように努力している。ご家族様には面会時にその状況を説明し、気がかりな事を把握し、対応を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・日常生活の中で、掃除・洗濯物干し・洗濯物畳み・食事作り・洗い物・片付け・畑・花畑の手入れなどの作業を職員と入居者様と一緒にこなす事で、ホームを自分の生活の場と感じて頂ける様、また、一緒に笑ったり、楽しんだり、学んだり、感じたりしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご家族様が面会に来所された際には、近況の報告も兼ねて話し合う場面を設け、課題などがあればその場でご家族様の要望も聞きながら、一緒に考えるようにしている。また、面会が困難なご家族様に対しては、入居者様の近況を毎月の通信の中で報告し、必要に応じて電話で話し合いを行なっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・入居前に聴取した家族構成や生活暦などにより、入居者様とご家族様の関係を理解し、良好な関係作りの支援に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の友人・知人との交流や、ゆかりの場所への訪問をできる限り行なえるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	各入居者同士の会話を聞き取る事で、各々の性格を把握し、関係が悪化しないよう、場面毎に職員が橋渡し役に徹し、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなったり退去した入居者様やそのご家族様の皆さんと交流があり、良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入居者様の訴えに耳を傾け、出来る範囲内で、最大限に希望に添えられるよう心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前にご本人様・ご家族などから聴取した個人情報をファイルにし、全職員が目にする事が出来るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・毎日の言動や行動を介護記録へ記入し、それを基にした定期的なカンファレンスによって、各入居者様の現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・ご本人と家族からは、思いを聞く機会を作る事に努め、ご本人の普段の様子を観察しながら、毎朝の申し送り後のカンファレンス時に職員に意見を求め、介護の方向性を決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・ケアプラン更新時に見直しを行うと共に、ご本人の急な変化に対応できるように、カンファレンスやミーティングで職員間の話し合いを行い、必要時ケアプランの見直しを行っている。ご本人の変化については、家族に状況を伝えて、話し合いをしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・ご本人の変化や職員の気づきを介護記録に記載し、他職員間での情報を共有し、カンファレンスなどで話し合い、ケアの見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所独自のサービスを重視している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事業所独自のサービスを重視しているが、入居者様やご家族様が希望された時には検討するが、現在要望はない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・毎日かかりつけ病院の看護婦に健康状態を伝え、常に入居者様と医師の橋渡しをしていただいている。定期的に看護師や医師の訪問をしていただき、常日頃の健康管理が出来ている為、急変時にはスムーズな対応が出来ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・通常はかかりつけ医が中心となって認知症による周辺症状が増強しない様に対応している。状況に合わせて認知症専門医を紹介していただき受診へと進めている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・毎日かかりつけ病院の看護師に健康状態を伝え、常に入居者様と医師の橋渡しをしていただいている。定期的に看護師や医師の訪問をしていただき、常日頃の健康管理が出来ている為、急変時にはスムーズな対応が出来ている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	できる限り入院先に足を運び状況把握に努めるとともに、ご家族様医師看護師SWと話し合い情報交換と早期退院に向けての協議をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、状況に応じ家族や医療機関と話し合う機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・現在は対象になる方はいませんが、今後入居者様が重度化した場合は、医療機関と密な連携を取りながら対応していきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・入居される前にご家族様からの詳しいお話をきいたり、現在利用しているケアマネジャーや医療機関からの情報提供を頂くと共に、家庭訪問等を必要回数行い不安を軽減するために、ご本人の訴えに耳を傾けて、職員間で話し合いや内部での情報の共有をしながら、ホームに慣れて頂けるための配慮をしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>・言葉遣いや羞恥心への配慮をしっかりと行い、個人情報に記載されているものは目に付かない所に置くなどの取り組みを行なっている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・各々のレベルに合わせた質問や、自己決定がしやすい質問をするよう心がけている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・極力各入居者の生活リズムを乱さぬよう、業務を遂行している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・定期的(月1回)に訪問理美容があり、本人の希望を聞いた上で利用して頂いている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・各入居者のレベルを考慮し、無理強いすることなく、職員と一緒に食事の準備ができるよう支援している。</p>		

Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・タバコについては館内禁煙となっているが、その他の物については、希望に添えるよう医師やご家族と相談しながら、提供できるよう取り組んでいる。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・排泄誘導が必要な入居者様に対して、他者に悟られないような声かけの配慮や日々の排泄状況の記録により排泄パターンの把握に努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・原則週3回と決めてはいるものの、希望があった場合や体調不良で入浴が出来なかった入居者様へは、臨機応変に入浴できるよう対応している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・安心して休息出来る場所を、状況に応じながら考え、提供出来るよう働きかけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・各々の楽しみを把握し、1人1人に合わせた支援(畑作業・散歩・裁縫等)を行なう事で、ストレスの軽減を図っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金は原則施設で管理しているが、買い物に行く時など必要に応じ本人に所持していただいている。 ・お金の所持を本人と家族が希望した時は、本人にも持っていていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・希望のある入居者様へは、その希望に添えるように職員同士で協力体制を敷いている。また希望を訴える事が困難な入居者様に関しては、行動や雰囲気より察して職員側より提供する等の支援も行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・お墓参り、買い物、外出外泊などご家族様と一緒に出かけをしていただいている。また特に要望があれば個別に支援する事もある。 ・行事の中に外出の支援も交えている。		・家族も参加する外出行事を今後企画していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・手紙や電話のやり取りについては、希望があれば即対応できるように支援している。また、年賀状の作成等の促しも行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・ご家族様の面会については原則的に規則はなく、通信により面会の促しも行なっている。 ・面会に来られた方に飲み物等を提供するなど、過ごしやすい環境作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・勉強会での意識向上を図り、参考資料が閲覧できるような環境を整え、身体拘束のないケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・夜間の防犯上の施錠以外には鍵はかけていない。その上で安全が保たれる状況作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・日中は入居者様に悟られないように人数確認を行い、夜間は定期的な居室への巡回を行なうことで、安否確認をおこなっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物(刃物類)等は、基本的に施設側で預かる事となっているが、各入居者様のレベルに合わせて、ご本人からの希望や必要に応じて使用して頂くようにしている。管理簿を使い、使用の際は、持ち出しと返却を数と日付を記入して、行方が判らなくなるよう注意を払っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応マニュアルの作成、熟読促し、勉強会の実施により、危機管理向上に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・救命救急についての講習を行い、かつ緊急連絡網を作成し、緊急時への対応を施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・年2回避難訓練を実施している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・入居時に起こりうるリスクについて家族に説明している。抑圧感を感じない様にながら、入居される方によっては細やかな見守りと気配りを行い、事故の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・毎日のバイタル測定、定期的(週1回)の体重測定、さりげない会話より疎通性や表情、顔色などを把握し、異変を感じた場合は速やかに対応出来るようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・注意点や薬の変更があった場合は連絡ノートへ記載し、全職員間で情報を共有している。また、薬処方時の効能書きやビルブックをいつでも閲覧できるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・便秘解消法や予防法について、勉強会の題目に盛り込み、その上で調理の際の工夫や軽い運動に取り組める環境作りを行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・起床時や毎食後、就寝前などに、各入居者様のレベルに合わせた口腔ケアを行い、介護記録へも記録するようにしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事形態を考慮し、固いものが食べられない時は食べやすい大きさに刻んだりして提供している。むせの状況があれば、食事や水分摂取の方法について検討している。ただ咀嚼・嚥下の機能が低下しない様に、簡単には刻み食やミキサー食にしないように注意している。食事は栄養バランスのよい物を提供出来ている。水分量については計測して1日の水分量を把握し、適切な水分量の摂取を心がけている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染マニュアルを作り、かつ勉強会にて実際の対応が速やかに出来るよう、対応している。・感染予防の第一の対策、手洗いとうがいの習慣づけを徹底している。(スタッフ・入居者・来訪者) ・エプロンの使用範囲の取り決めをして、使い分けをして取り組んでいる。(スタッフ・入居者) ・トイレ、洗面所、キッチン等水周り、手すりの除菌掃除に気を配り毎日行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>・納入される食材の検品により、不良品の確認・除去を行い、毎日のキッチン内掃除と、調理器具の消毒を行い、チェック表に記入する事で失念を防止している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>・敷地内入口付近には花畑を設け、玄関先にも花壇をつくり、親しみやすい環境作りを実施している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・オープンキッチンにする事で、調理中の生活音が、自然に聞こえる環境を整えている。また、不必要にテレビをつけるのでは無く、入居者様が求める物を提供出来るよう、スタッフは配慮している。また毎月行なっている、季節にちなんだ行事で撮影された写真を、居間や廊下の壁にはり、入居者様やご家族の方へも見てもらえるようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>・入居者様は自由に行動していただき、入居者様同士で居室を行き来するなど過ごされている。 ・リビングの食卓テーブルスペースとソファースペースの他、玄関近くにも落ち着けるスペースを設けている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・入居時にはご家族様の協力を頂き、本人の使い慣れたもの(寝具や食器類等)やお好みのものを持ってきてもらっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>・各居室や居間に温・湿度計を設置し、入居者様の体調や訴えを考慮しながら、温・湿度管理を行なっている。また、24時間換気の設定を整えており、状況に合わせて使用している。</p>		

Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

.サービスの成果に関する項目		Aユニット
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		Aユニット
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の生活は、入居者が共に地域住民の一員として、より良い環境を地道に整えて生活することが必要と考えています。その一環として、入居者と共に地域ボランティア事業であるフラワーロードのお手伝いや事業協賛、町内会等地域の方との交流を大切にしています。また広い畑に花を植え、野菜を植え、収穫をして、入居者と職員が楽しみながら自分たちのできることを無理せず無茶せず取り組んでいます。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 花	評価実施年月日	平成20年10月 1日
評価実施構成員氏名	Bユニット ET・DS・MM・SY・AO・YN・HH		
記録者氏名	ET	記録年月日	平成20年10月 1日

北海道

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・年一回理念についての勉強会を開き、指針の明確化、理念を基にした各自の取り組みを明確にしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・朝夕の申し送りで理念を読み上げ全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。		・個人目標を持ち、更に意識を高めて行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催、家族会の開催、町内会の参加、地域ボランティアへの参加により、施設、家族、地域の方々との交流を通じ、互いの想い、考えを理解する機会を作り、理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・散歩の際に会う方々に挨拶を行ない関係作りに努力している。また行事への招待も取り組んでいる。 ・地域の高齢者との「お茶会」を企画して、実施してみた。		・近所の子供達が、気軽に立ち寄り遊んで行ける様な環境にしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町内会の新年会、花見、総会など地域の行事に参加している。 ・入居者の方々は地域貢献ボランティアに参加したり、近所のお店を利用し買い物や美容室などを楽しんでいる		
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の開催、地域ボランティア、地域行事への参加により、地域の方々と交流をすすめる、互いの想い、考えを理解する機会を作るように努めている。		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義を理解し取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、行事についての説明や、日ごろの入居者様の現状や取り組みを説明するとともに、委員の方の意向により開催日を行事開催日に行い、会議に参加していただく入居者様だけではなく、入居者様全員の姿を見ていただくようにしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>旭川市に対して、分からない点、疑問点を放置せず確認するよう心掛け、報告事項も正規に行なっている</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>・法律家への相談や研修への参加により学ぶ機会をもち、勉強会も開催している。 ・必要性がある入居者様について、施設長を中心に各ユニット役席が話し合うことにしている。 ・必要性があればご家族様と話し合うことにしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・研修への参加や勉強会を行っている。 ・スタッフと入居者様の信頼関係、言葉のやり取り、特に朝の入居者様の精神状態を観察し把握する様努力している。 ・身体部のアザ、傷などの異変出現の際には、その原因について検討するとともに、スタッフ全員が完治までの状況把握を徹底することにより、スタッフ間の牽制を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い理解・納得を図るとともに、その後についても話しやすい環境提供に努めている。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行なわれている運営推進会議に入居者様にも参加して頂き、意見をいただいたり、行事等に外部の方の参加を呼び掛け外部の方に意見を頂いている。 家族や友人などのご面会の際には、居室内で過ごせるようなシステムにしている。特にご家族から、入居者様の思いを得た際には、報告をいただける様な関係作りに努力している。 入居者様の隠れたニーズを知るために、スタッフと入居者様とは、一対一で関わりコミュニケーションを図れる機会を作っている。その後スタッフ間での情報共有も図っている。 		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご家族様に、担当介護員からの生活状況や心身の状態を伝える便りを毎月出している。また金銭出納帳の写しと領収書も併せて送付している。 急な心身の異常などは、必要に応じ電話で都度伝えている。 		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様と施設とのより良い関係を築くため、家族会の開催や来訪時の話し込み等を行い、改善点は都度職員で話し合い改善している。また良い点についても職員に伝え意識の向上に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勤務についても状況に応じ柔軟な対応をしている。 状況に応じそれぞれのユニットが協力し合っている。 		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニット間の介護員の移動は極力少なくしている。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中などリフレッシュできる環境で過ごしている。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居される前にご家族様からの詳しいお話を聞いたり、現在利用しているケアマネジャーや医療機関からの情報提供をいただくとともに、家庭訪問等を必要回数行い、ご本人様との面談により必要な情報を得ながら信頼関係の基礎を築いている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・ご家族により、時間を作って頂く事が困難な場合もあるが可能な限り聴く機会を作ることに努力している。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要としている支援を可能な限り理解検討し、その中で自分達で出来る事と出来ない事を見極め、他のサービス利用も含めた対応も検討するようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・ご本人が安心出来る様に、気持ちを理解するように努め、周囲の人やその場に馴染むまでは、細かく様子を観察し、特に入居される前の家庭訪問等でコミュニケーションを持つように努力している。ご家族様には面会時にその状況を説明し、気がかりな事を把握し、対応を考えている。 ・暫定プランの中には、一番に環境に慣れて頂く為のプランを立案している。 ・一定期間を設けて、プランを評価し必要な点を見直して対応する様努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・入居者様の話に耳を傾け、想いを共感し合える様努力している。 ・共に過ごす時間を多く持つことにより、コミュニケーションを多く持ち、言葉や行動から多くの事を学び、喜怒哀楽を共にするよう心がけている。 ・新入スタッフに対しても、共に過ごし支え合う関係作りについて教育している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・入居生活の中で起きた入居者様同士や入居者様と介護員との喜怒哀楽のエピソードや入居者様のご家族様に対する思いなどをできるだけ伝え、共感をもてただける信頼関係を築く努力をしている。 ・ご面会の際には、スタッフからもご家族様からも互いに声をかけてコミュニケーションがとれる環境づくりに努力している。 ・ご家族の声にも耳を傾け、一緒にどう支えるか検討している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・ご本人の想い、ご家族の想いをそれぞれの立場で受け止め理解できる様に努めている。 ・自分で得た情報は、スタッフ全員で共有し関係を築く事に役立てる努力をしている。 ・日常の中では、ご本人がご家族の話をした際には、一緒に感謝の気持ちを話し合う。 ・ご家族のご面会時には、入居者の方と一緒に喜んでお出迎えをする。時には、ご家族に混じって一緒に時間を過ごす機会を持っています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	・ご本人の大切にしている人、場所を充分把握できている。 ・ご家族様とも、この事についてケアマネを通して協力を頂きながら支援してゆける様努力している。		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・入居者様同士の関係の中で著しく傷つくような場合には、スタッフが中に入りその場にあつた対応をする努力をしている。 ・可能な限り入居者様同士なりの関係を自分自身で築ける様支援している。 ・関わり合いの中では、可能な限り見守りをし、トラブルの際にはタイミング良く中に入れる様に努力している。 ・時には、喧嘩も見守る。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなったり退去した入居者様やそのご家族様の皆さんと交流があり、良い関係を保っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・一人一人の思い、希望、意向などを、普段の関わりの中で把握できる様に努力している。 ・新たな発見があつた際には、情報を共有しご本人の満足にかなえられる方法を検討しています。困難な際にも、どうしたらかなえられるのかを、考える努力をしている。 ・ご家族様にも協力を得ている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・可能な限り、生活歴、馴染みの暮らし、生活環境を継続できる事を最優先に考えている。 ・それを継続する為に、把握に努力しご家族にも協力を得ながら支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・ケアプランを基に、ご本人の生活全般を観察し、必要な点を記録に載せる努力をしている。 ・記録に載せることで、スタッフ間でそれを共有し現状把握できる様にしている。また必要な事をミーティングでスタッフで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人の課題においては、まず現場スタッフからの意見提案を聴取し課題を確認するとともに、ケアマネとしての意見も含めて、介護計画を作成している。 ・ご家族様とのコミュニケーションを深め、言いにくい事も聞かせていただき、思いを受け止める様努力している。		ご家族により中々時間の無い方への関わりが、まだ努力が必要と考えている。

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・毎日のミーティングでケアプランが実施されているかを、評価と共に確認している。その中で改善が必要な点において、そのときに変更や、追加をして実施するように努力している。 ・新たな課題が出た際には、ご家族様に報告して計画内容をお伝えして承諾を得る様になっている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・介護記録に必要な内容を記載するよう指導し、常に情報が共有できる環境づくりに努力している。また情報をご家族様とスタッフが共に共有し、ご本人にとっての最高の生活を支援できる様努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所独自のサービスを重視している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事業所独自のサービスを重視しているが、入居者様やご家族様が希望された時には検討するが、現在要望はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>・不安や、心配ごとがあった際には、即相談できる信頼関係を築いている。</p> <p>・可能な限りの身体・精神状況を報告するように努力をしている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>・生活に支障のある症状が出た際には、主治医と相談し専門医が必要かを検討していただいている。</p> <p>・常に身体状況も含めて、精神状態が気になる際には可能な限り報告をする努力をしている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>何かあれば、かかりつけ病院の看護師に健康状態を伝え、常に入居者様と医師の橋渡しをしていただいている。定期的に看護師や医師の訪問をしていただき、常日頃の健康管理ができていく為、急変時にはスムーズな対応ができていく。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>できる限り入院先に足を運び状況把握に努めるとともに、ご家族様医師看護師SWと話し合い情報交換と早期退院に向けての協議をしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、状況に応じ家族や医療機関と話し合う機会を設けている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>・現在その様な対象となる方はいないが、その事に備え準備段階である。</p> <p>・主治医、担当ナースと連携を持ち対応出来る様取り組んでいる。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居される前にご家族様からの詳しいお話を聞いたり、現在利用しているケアマネジャーや医療機関からの情報提供をいただくとともに、家庭訪問等を必要回数行い不安を軽減するために、ご本人の訴えに耳を傾けて、職員間で話し合いや内部での情報の共有をしながら、ホームに慣れて頂けるための配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉使いには、丁寧な言葉で対応するように努力している。また指導にも心がけ、互いに注意し合える環境づくりを努力している。 ・対応においては、感じの良い態度でケアできる様努力している。 ・申し送りや、記録を行う際には、個人名を言わない、載せないシステムにしている。 ・個人情報に関わるものは、施設外に持ち出ししない。 ・他者の前で羞恥心に配慮した声かけをしている。 		記録をする際の環境を検討したい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、意思決定できる様な声掛けに努力している。 ・ご本人の言葉にならない思いを受け止められる様に、日常の中の行動、言動を把握するように努力している。 ・ご本人にとっての理解し易い説明方法など、スタッフ間での情報交換を密にして、関わられる努力をしている。 ・意思決定した際には、希望通りの行動が出来る様最大限の努力をしている。 		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、ご本人のペースに合わせてプランを実施出来る様に努力している。 ・その時間の過ごし方いくつかの選択できる物を準備して、過ごせる対応を心掛けている。 		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の意思を優先し、その中でも必要な部分だけに支援する様に努力している。 ・季節、気温に合わせ、そのときどきに相応した服装などのおしゃれを支援出来る様に気配りしている。 ・理美容は、行きつけの美容院か訪問美容院にご本人の希望に沿って行っている。 		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・個々の得意な事、力に合わせて行うことが出来ている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>・可能な限り本人の嗜好の援助が出来るように努力している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>・入居者個々の排泄状況を把握し、どの部分に支援が必要かを見極め、支援する努力をしている。</p> <p>・可能な限り、トイレで排泄できるよう努力している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>・曜日、時間が設定されているが、この範囲の中で一人一人の希望に叶えられる努力をしている。(温度、時間、一緒に入浴したい入居者など)</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>・就寝につく時間は、個々に合わせて支援できている。パジャマなどの着用時にも個々に合わせた支援が提供できている。(電気、室温、下着の調整、布団、体交枕の使用、枕など)</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>・個々一人一人に対して、検討し支援している。何が良いのかを解っていても、実現できない場合にも再検討し支援できる様に努力して、本人の心を大切にしている。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>・お金は原則施設で管理しているが、買い物に行く時など必要に応じ本人に所持していただいている。</p> <p>・お金の所持を本人と家族が希望した時は、本人にも持っていただいている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>・ご本人からの希望があった際には、最大限努力できるようにしている。</p> <p>・積極的に機会の提供に努力をしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>・お墓参り、買い物、外出外泊などご家族様と一緒に外にお出かけをしていただいている。また特に要望があれば個別に支援することもある。</p> <p>・行事の中に外出の支援も交えている。</p>		<p>・家族も参加する外出行事を今後企画していきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>・依頼があった際に、希望がかなう様に努力している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>・入居者と共に、喜んで笑顔で感じ良く出迎え、くつろいで過ごして頂ける様に努力している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>・身体拘束はしていない。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・鍵をかけずに生活を送るために、危険を予測しその事を解決する為の対策を考え実践している。 ・ヒヤリハットの収集から、情報共有して事故を未然に防止する努力をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・危険意識を持ち、スタッフ間で協力仕合、安全確認を行うよう努力をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物(刃物類)等は、基本的に施設側で預かる事となっているが、各入居者様のレベルに合わせて、ご本人からの希望や必要に応じて使用して頂くようにしている。管理簿を使い、使用の際は、持ち出しと返却を数と日付を記入して、行方が判らなくなるよう注意を払っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・個々のアセスメントの中に、事故の危険性を踏まえプランを立案している。 ・ヒヤリハットを収集し、リスクセンスを磨いて行ける様努力している。 ・ヒヤリハット報告の中から、事故防止策を含めたケアプラン作成に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・年間計画の中で、毎月一回実施している勉強会の中にメニューに含めている。 ・勉強会以外にも、急変や事故の可能性のある入居者が出た時点で安心して、仕事出来る様にイメージトレーニングを実施指導している。		勉強する回数を増やし、自信のもてる状態にしたいと考えている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・年2回避難訓練を行っている。		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>・リスクが生じる可能性が出てきた際には、早期に施設としての考えをまとめ、ご家族様と話し合っている。さらに対応ケアプランを作成して説明を行っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>・Df指示を確実に把握し、必要な観察を実施している。情報の共有化も出来ている</p> <p>・異変を発見した際には、スタッフ全員が速やかに対応できるよう、報告システムがある。また、勉強会などによって、イメージトレーニングを実施している。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>・服薬取り扱いにおいて、マニュアルに沿って支援を行っている。</p> <p>・薬の変更や、新たな開始した薬の指示、情報は共有し把握できるように努力している。</p> <p>(申し送りノートの活用、朝・夕の申し送りでの報告・自らの情報収集)</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>・殆どの入居者の皆さんの排便状態を把握している。</p> <p>・一人ひとりに対してのDf指示を把握し、ケアマネの指示のもと支援できている。</p> <p>・薬を頼らない予防対策を優先に考える努力をしている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>・起床時、毎食後の口腔ケアを徹底して行っており入居者全員が習慣となっている。</p> <p>・口腔内の状態観察を実施し、把握している。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>・食事摂取状況、水分の摂取量、体重測定値の変化を観察し、主治医に報告相談を常に行っている。</p> <p>・通常と違った様子の際には、ケアマネに報告をするシステムとしている。</p> <p>・嗜好に關しての情報から、メニューを変更したり、盛り付けの量や刻みなどを個々に合わせた対応に心掛けて、実施している。</p>		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の第一の対策、手洗いとうがいの習慣づけを徹底している。(スタッフ・入居者・来訪者) ・エプロンの使用範囲を取り決めをして、使い分けをして取り組んでいる。(スタッフ・入居者) ・トイレ、洗面所、キッチン等水周り、手すりの除菌掃除を気を配り毎日行っている。また実施状況を確認把握している。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチン内の清掃、器具の消毒等は、毎食後・夕食後一定のマニュアルに沿って実施している。 ・掃除の点検を行い、常時汚れているところをチェックし清潔を保てる様努力している。 ・食材においては、毎日新鮮な物が届いている。新鮮度のチェックも行っている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関まわりを、掃除において気配りをして清潔感のある空間である様に、努力している。 ・季節によるが、明るい花を植えるなどをしている。 ・外でくつろげる空間に、テーブル・イスをセッティングしている。 		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの足音、声のトーン、戸の開閉音などの気配りを指導している。食事中には、キッチン内での作業は中止している。テレビを消す時間を作っている。 ・照明は日中、夜間共に環境に合わせてその都度気配りをしている。 ・食事の作る姿や、音、匂いを感じることができる間取りになっている。 ・くつ、スリッパ等を履かずに生活している。 ・季節感のある生花を、飾っている。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングのテーブル席は、自由に選んでいただいている。 ・テレビ前、東リビングと2箇所のくつろぎスペースを作っている。 		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居の際には、なじみの有る物を可能な限り持って来て頂ける様に勧めている。 ・特に、タンス・布団などの寝具、茶碗、湯のみなど。 ・ペットの位置などは、今までと近い状態でのセッティングを配慮している。 ・気に入った環境になるまで、継続して居心地の良さをご本人と工夫して行く様に努力している。 		

20.10.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・温度・湿度計を利用して常に注意を払い環境を整えている。 ・朝、昼、夕などに窓を開け空気の入替えを実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・基本として、立つ、歩くなどを継続して行える支援を工夫している。 ・可能な限り車椅子は使用していない。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・ご自身の力を使って理解していただける工夫をしている。 ・できることは、声掛けに工夫して手を出さず優しく付き添い見守るとともに、可能な限りチームワークで、全スタッフが同じ内容の声掛けを行っている。		
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花や野菜作りの作業を良くしている。特に天気の良い日には、散歩や、野外の食事、ティータイム、洗濯物干し、レクリエーション活動等も楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		Bユニット
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

.サービスの成果に関する項目		Bユニット
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の生活は、入居者が共に地域住民の一員として、より良い環境を地道に整えて生活することが必要と考えています。その一環として、入居者と共に地域ボランティア事業であるフラワーロードのお手伝いや事業協賛、町内会等地域の方との交流を大切にしています。また広い畑に花を植え、野菜を植え、収穫をして、入居者と職員が楽しみながら自分たちのできることを無理せず無茶せず取り組んでいます。